

シニア対象のプログラムを考え直そう！

シニア (senior) とは、年長の・年上の・先輩、といった意味もあるが、年長者・長老などの意味もあり、どちらかという日本では年配者をさすイメージが強いように思う。シニア、という定義を調べて見ると、定年後 60 歳以上、という場合も、子どもが独立して第二の人生が始まる 50 歳ぐらいから、という場合もあるそうだ。定義はない、という定義もある。ちなみに、ゴルフのシニアツアーの参加資格は 50 歳以上だ。また、面白いことに、50 歳代の人に聞くと 60 歳以上がシニア、60 才代の人に聞くと 65 歳～70 歳以上がシニアとイメージしているとのこと。さらに、「自分なりの価値観を持ち、年齢に関係なく仕事や趣味に意欲的、社会に対しても元気に行動を起す新世代」をアクティブシニア、と定義する場合もあるらしい。

自然体験や自然観察の分野でいうと、40 歳半ば頃から？ (人によりますね)、若い頃の感性とは明らかに異なる状況が生じてくる。簡単にいうと、目が遠くなる (老眼)、耳が聞こえにくくなる (特に高い音) などだ。このような世代を対象にした自然体験プログラムは、若い人たちのものと同様でいいのだろうか？ 少なくとも私の場合、ある距離の細かいものは見えづらくなってきているし (あれほど簡単に見つけられたムササビの糞が、這いつくばらなると見えなくなった)、コウモリの調査をしても、ヤマコウモリやおヒキコウモリの可聴域での音の発見率が明らかに若い人たちの発見率よりも落ちている。シニア (インターブリテーション的には 45 歳くらいから上の人たちを指すことにする) の人たちを対象にしたインターブリテーション・プログラムでは、感性を使って発見する楽しみを伝えるものや、発見したものをシェアする楽しみを伝えるプログラムも何気なく行っているが、シニア世代はそれを本当に楽しんでいるのだろうか？ (と敢えて疑問を呈したい) 知らなかった自然に関する逸話や生物の名前の由来などのトーク中心のプログラムには、シニア層が自然になじんでいるような気がしないだろうか？ これをそのままにしないで、シニア向けのプログラムの目標設定をもう一度見直し、プログラムを練り直す必要があるのではないかと、思うのだ。

ここで、シニア層からのお叱りを覚悟の上で、その年代の心身的特徴をとりあげてみよう。

< マイナス面 >

- ・目が見えづらくなる (老眼・視野が狭くなる、細かいものを探すのはしんどい、地面の上のものを探すのはおっくう、ある距離の焦点があわせづらくなるなど)。
- ・耳が聞こえづらくなる (特に高い音が聞こえづらい、新しい音の世界を切り拓きづらいなど)。
- ・しゃがむのがしんどい。持続力がない (興味や関心について、作業に関して・・・)。反射神経が鈍くなる。体の柔軟性がなくなる (あちこち痛い)。
- ・早い動きについていけない (実際の動き、物事の変化など)。
- ・これからの人生の意味が (若い人と比べると、学ぶ意味や、自分の役に立つことが異なる?)。

こう書いてくると、自分と重なって落ち込んでくるので、何かいいことがないか、捻り出してみた。

< プラス面 >

- ・自分の経験と照らし合わせて、何かをコメントできる？ 知恵と体験と感性をあわせた発見ができるはず! ?
- ・全体の総括、統括ができるようになる？ マクロに見るのは楽？
- ・そのままの姿勢で対応するのが楽？
- ・ある程度お金は持っている??? (一般にね。私は持っていません!)
- ・駄洒落 (オヤジギャグ) を飛ばしまくるようになる (これ、プラス面?)



私自身のことを考えると、今のシニア世代は、まだ子供の頃に身の回りに自然が残っていたり、成長するにつれて自然が破壊されてきたのを見てきたり、比較的多くの自然体験をしたりしてきた世代なので、それらを思い出して皆に伝えてもらうような役割になってもらうこと、シニア世代のハンディをカバーするグッズを使う工夫、次世代につなぐことを一緒に考えてもらうこと、シニア世代の心身的特長を生かすようなプログラム (これがなかなか難しいのだ!) などを考えたら面白いだろうな、と思うのです。私自身、何を素直に面白いと感じるのか、まだ把握できていませんが、今後、少し意識して把握し、整理してみたいと思います (シニア世代が自分たちの状況を隠さず、若い人に伝えることは大切!)。まあ、とりあえず今回は課題提起まで…。

発行：東京都立奥多摩湖畔公園 山のふるさと村ビジターセンター 〒 198-0225 東京都西多摩郡奥多摩町川野 1740 TEL：0428-86-2551 FAX：0428-86-2316 E-mail：yamafuru@hkr.ne.jp URL：http://www.yamafuru.com 企画・編集：自然教育研究センター 2010年8月発行	< 編集後記 > 山の天気は本当に変わりやすい。午前中は晴れていたのに、みるみる暗くなって来て、午後にはザーッと大雨なんていう日が続いています。でも、雨上がりには、待ってましたとばかりに虫や動物が出て来て喜びの歌や踊りを披露してくれます。(坂田)
---	--